

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目

The topology of 'true nothingness': A genealogy of Kitarō Nishida's '*basho*'

(「真の無」のトポロジー: 西田幾多郎における「場所」の系譜)

氏 名

FELIPE FERRARI GONÇALVES

論 文 内 容 の 要 旨

西田幾多郎によると、有るものは必然的に何処かに於いてある。したがって、全ての存在者はある「場所」に存在しなければならない。実のところ、物理的な物体や外的な「自然現象」のみではなく、情熱、意志、感覚といった内的な現象と同様に存在するので、存在者であり、確かに「場所」をもつ。それゆえ、西田哲学における「場所」は、確かにものの空間的な位置ではなく、於いてあるものの存在性そのものが於いてある「場所」である。そもそも、外的な存在者や「自然現象」は我々の「意識」にとって、外的なものとして扱われているので、その「場所」は外的なものとして認識される。他方で、「自然現象」は「空間」と関係し、確かにその関係は物理的なものではなく、空間的な位置をもたないが、存在する関係である。したがって、その関係には「場所」があるため、必然的に「場所」をもつ。我々は「意識」によってあらゆる存在者を認識するため、すべてが「意識現象」であり、外的な現象と内的な現象は同様に「意識」に於いてある。それゆえ、すべての存在者の「場所」は「意識」のうちに於いてある。確かに、「自己」は存在するので、他の存在者と同じように、ある「場所」に於いてある。それゆえ、それは各個人がもつ意識ではなく、「自己」を含む「意識」である。

すべてのものの存在性は「場所」に於いてあり、すべての「場所」は「意識」のうちに於いてあるため、「意識」の外に存在するものがないという意味をもつことになる。もしある存在者が「意識」の外に存在するとしても、そこには「場所」がないので、それは実のところ、存在しないという意味をもつことになる。というのも、西田によれば、「意識」の外に存在するものはないからである。それゆえ、「意識」はすべての現象が存在し、相互に関係する世界、ないし宇宙である。その宇宙はすべての存在者の「場所」を含む「意識の場」という力の場によって限定され、すべての存在者が於いてある絶対的な「場所」

である。

すべての存在者は「意識」のうちに有る「場所」に於いてあるというのは、一見したところ、西田哲学では、物理的な世界が存在せず、世界は「意識」のうちで創造された「實在」にすぎないと思われるので、西田哲学によれば、「實在」はどのような存在であるのだろうか。

西田における「場所」という概念はプラトンにおける「khôra」、アリストテレスにおける「tópos」、ベルクソンにおける「等質的環境としての空間」やアインシュタインにおける「重力場」から強い影響を受けた。

『ティマイオス』において、プラトンは、ものの場所が存在するのみならず、図形に限られた空虚な空間の部分であると述べている。すなわち、場所というのは、それに含まれているものにとって「受容者」である。他方、アリストテレスは、『自然学』第四巻において、「場所」は「受容者」ではなく、物体を包む二次元的な面の結合体であるという。

さらに、近代になって、アンリ・ベルクソンは『意識に直接的に与えられたものについての試論』(*Essai sur les données immédiates de la conscience*)という博士論文において、感覚が経験しうる「等質的環境」(milieu homogène)として空間を考えた。さらに、日本でも、プラトンやアリストテレスの影響を受け、西田は「場所」という概念に新たな解釈を与えた。彼によると、全てのものは外的な空間ではなく、意識の内に存在するという。

最後に、西田は1920年より、アルベルト・アインシュタインにおける相対性理論に非常に深い興味を持ち、西田の勧めによって、アインシュタインは1922年に日本に招待された。西田によると、アインシュタインは物理学に大いに貢献した上、彼の研究は彼自身が想像することができないくらい哲学的な含蓄があり、「力の場」(Kraftfeld)として定義された「重力場」(Gravitationsfeld)が西田の哲学の研究と密接な関係があった。ゆえに、アインシュタインにおける「場」(Feld)という概念は西田哲学における「場所」(Platz)に深い影響を与えたので、今回の発表の目的は相対性理論における「重力場」を説明し、それはどのように西田幾多郎における「場所」や「意識の場」という概念と関係しているのかを説明することである。

本稿の目的は、西田幾多郎が『場所』というエッセイで定義した「場所」という概念の起源を探しながら、彼は西洋哲学や科学からどのように影響を受けたのかを説明することである。